



環境 報告書

2019年度

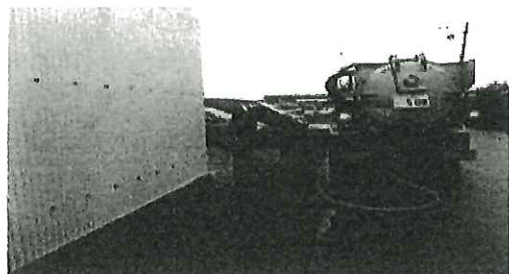
(活動期間:2019年4月 ~2020年3月)



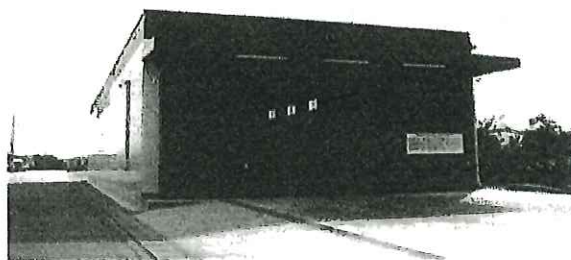
廃油収集ローリー車



本社処分場



バキュームダンパー車(汚泥収集)



大口処分場(積替保管施設)

近隣地域側溝清掃 年2回実施!



環境事業部(分析室)

Ce-TEC

株式会社 中部環境技術センター

(2020年5月25日発行)

(見直し日:2021年1月27日)

目 次

	頁
1. 組織の概要	1-1
産業廃棄物収集運搬業許可番号	1-2
運搬車両の種類(車両形式・積載量)と台数	2
中間処理施設の種類及び処理能力	3
産業廃棄物最終処分までの一連の処理工程	4-1
産業廃棄物処分実績	4-2
2. 登録対象	5
3. 環境宣言	6
4. 環境改善目標 2019～2021年度	7
5. 環境改善目標と実績	8-1
5-1. 具体的環境活動の評価	8-1
5-2. 2020年度活動について及び今後の課題	8-2
6. 環境関連法の順守状況	9
7. 代表者による全体の評価見直し結果	9

1. 組織の概要

- (1) 事業所名 : 株式会社 中部環境技術センター
- (2) 代表者氏名 : 代表取締役 鈴木 孝佳
- (3) 所在地 : 本社(中間処理施設) 三重県松阪市伊勢寺町418番地の1
大口工場(中間処理施設・積替え保管施設)
三重県松阪市大口町字新地1648番地の8
営業統括本部(事務所) 三重県松阪市伊勢寺町3289番地の3
- (4) 事業内容 : 危険物地下タンク貯蔵所・移動貯蔵タンクの定期点検事業
産業廃棄物処分業(中間処理、再生燃料油製造販売)収集運搬業
環境計量証明事業、作業環境測定事業
建築物環境衛生分析測定事業、環境調査及びコンサルタント事業
- (5) 資本金 : 10,000,000円
- (6) 沿革 : 昭和63年3月 鈴定運輸(株)より独立、発足
平成元年3月 危険物地下タンク定期点検事業者認定取得
平成6年11月 三重県産業廃棄物処分業、収集運搬業許可取得
平成9年3月 環境計量証明事業登録
平成10年1月 労働基準局作業環境測定機関の指定
平成12年10月 建築物飲料水水質検査業登録
平成15年6月 建築物空気環境測定業登録
平成17年3月 指定調査機関の指定(環境省 土壌汚染対策法)
平成23年3月 鋼製地下タンクFRP内面ライニング事業者認定
平成25年3月 M-EMS認定(S2W)、EA21相互認証取得～毎年更新
平成27年2月～ 三重県特管産業廃棄物収集運搬業許可更新時
平成27年9月 優良認定取得⇒愛知県、和歌山県、福井県、京都府
収集運搬業優良認定取得、三重県産業廃棄物処分業及び
収集運搬業優良認定取得。
平成28年11月 一般建設業管工事業取得
平成28年5月～優良認定取得⇒大阪府、兵庫県産廃収集運搬業
平成29年7月～優良認定取得⇒滋賀県、奈良県、産廃収集運搬業
愛知県特別管理産業廃棄物収集運搬業
- (7) 事業の規模 売上高: 9.59億円
従業員数: 45名(パート7名含む)
・本社(中間処理施設)・事務所 敷地面積 1,560㎡ 延床面積 209.67㎡
・大口工場(中間処理、積替え保管施設) 敷地面積 489.45㎡
延床面積 341.19㎡
・営業統括本部(事務所) 敷地面積 792㎡ 延床面積 235㎡

(8) 許認可一覧と処理能力

・産業廃棄物処分業許可番号	
①	三重県 第02426024332号 油水分離 : 廃油 18.4m ³ /日(8h) 汚泥 9.8m ³ /日(24h) 廃酸 廃アルカリ 有効期間: 平成27年9月29日～平成34年9月28日(優良認定)

・産業廃棄物収集運搬業許可番号	
①	三重県 第02416024332号 ※積替え保管含む 有効期間: 平成27年9月29日～平成34年9月28日(優良認定) 種類: 燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(6種類)
②	愛知県 第02300024332号 有効期間: 平成27年4月16日～平成34年3月9日(優良認定) 種類: 燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(6種類)
③	福井県 第01802024332号 有効期間: 平成27年7月13日～平成34年7月8日(優良認定) 種類: 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(5種類)
④	京都府 第02600024332号 有効期間: 平成27年8月20日～平成34年7月27日(優良認定) 種類: 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(5種類)
⑤	和歌山県 第03000024332号 有効期間: 平成27年4月28日～平成34年4月19日(優良認定) 種類: 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類(4種類)
⑥	大阪府 第02700024332号 有効期間: 平成28年5月9日～平成35年5月8日(優良認定) 種類: 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類(4種類)
⑦	兵庫県 第02804024332号 有効期間: 平成28年5月16日～平成35年5月15日(優良認定) 種類: 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(5種類)
⑧	滋賀県 第02501024332号 有効期間: 平成29年7月24日～平成36年7月23日(優良認定) 種類: 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類・金属くず(5種類)
⑨	奈良県 第02900024332号 有効期間: 平成29年10月10日～平成36年10月9日(優良認定) 種類: 燃え殻・汚泥・廃油・廃プラスチック類(4種類)
⑩	岐阜県 第02100024332号 有効期間: 平成30年10月30日～平成37年10月29日(優良認定申請予定) 種類: 汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類(5種類)
・特別管理産業廃棄物収集運搬許可番号	
⑪	三重県 第02450024333号 ※積替え保管含む 有効期間: 平成27年2月18日～平成34年1月6日(優良認定) 種類: 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・感染性産業廃棄物 特定有害廃石綿等(5種類)
⑫	愛知県 第02300024333号 有効期間: 平成29年10月23日～平成36年10月22日(優良認定) 種類: 引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ(3種類)

(9) 取扱い産業廃棄物(事業規模)

1) 産業廃棄物 収集運搬実績と車両(施設)の種類(車両形式・積載量)と台数
・処理実績(収集運搬実績と廃棄物運搬量)

収集運搬実績	単位	H29	H30	R1
廃棄物運搬量	t	1,515	1,906	1,723

・運搬車両の種類(車両形式・積載量)と台数

運搬車両一覧						
	自動車登録番号	形式・寸法	車両名称	最大積載量(kg)	低公害車導入状況	備考
1	三重800す5596	BGD-FC7JCWA 596×215×242	タンク車	2,870kg	H17年排ガス基準 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
2	和泉800す4855	PB-FRR35D3 675×214×237	タンク車	2,950kg	H13騒音規制 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
3	三重800は814	PJ-FK61FHZ 741×229×256	タンク車	5,160kg	NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
4	三重800は1669	LKG-PK39LD 766×246×266	タンク車	6,880kg	H27年燃費基準 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
5	三重800は508	KL-PK25A 735×230×283	タンク車	6,000kg	H13特殊構造 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
6	三重100す3430	ADG-FD7JLWA 846×226×295	キャブオーバ	3,100kg	NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
7	三重400つ1124	BKG-LJR85A 465×169×195	キャブオーバ	2,000kg	H27年燃費基準 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
8	三重800は1882	QKG-FE7JJAA 751×226×266	タンク車	5,650kg	H27年燃費基準 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
9	三重100せ4159	TKG-NLR85AR 607×189×228	キャブオーバ	1,750kg	H27年燃費基準 NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
10	和泉800す6847	KK-FD1JDEA 621×217×246	タンク車	3,160kg	NOX・PM適合	新・ 継 ・廃
11	三重400に3294	BGK-LHR85A 469×169×198	キャブオーバ	1,500kg	H27年燃費基準 NOX・PM適合	新 ・ 継 ・廃
12	三重400に3344	ABF-S402M 404×166×190	バン車	750kg	NOX・PM適合	新 ・ 継 ・廃
13	三重400に7808	TRG-NJR85A 468×169×196	キャブオーバ	2,000kg	H27年燃費基準 NOX・PM適合	新 ・ 継 ・廃

・積替え保管施設 種類・保管条件

積替え保管施設

場所：三重県松阪市大口町字新地1648番地8

面積：42 m² (特管: 9.84 m²)

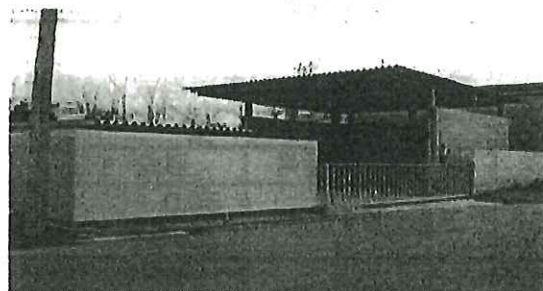
種類：燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類

特別管理産業廃棄物: 引火性廃油、腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ
以上9種

保管上限：12t (特管: 3.2t)



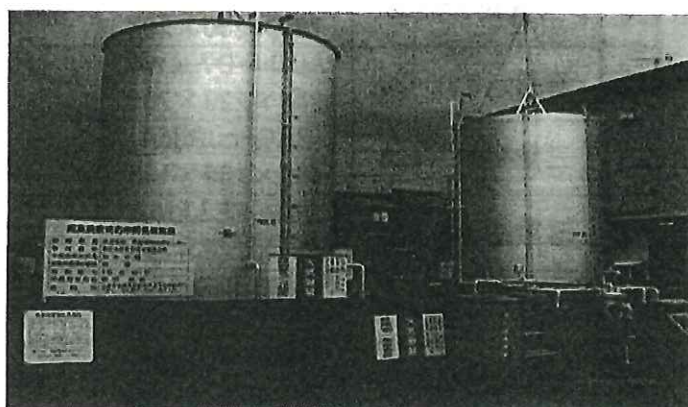
(特別管理産業廃棄物保管場所)



2) 中間処理施設の種類及び処理能力

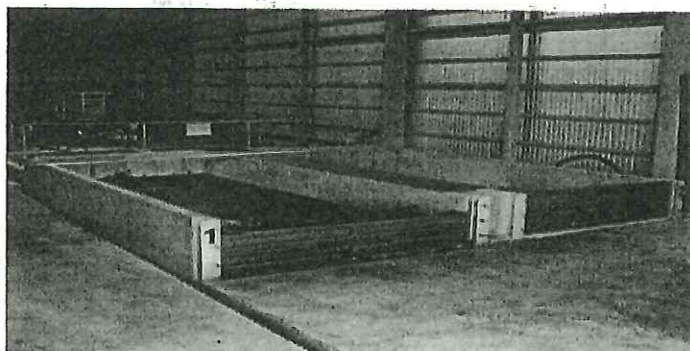
① 本社・伊勢寺工場 ⇒ 廃油: 18.4 m³/日 (8h)

(油水分離)



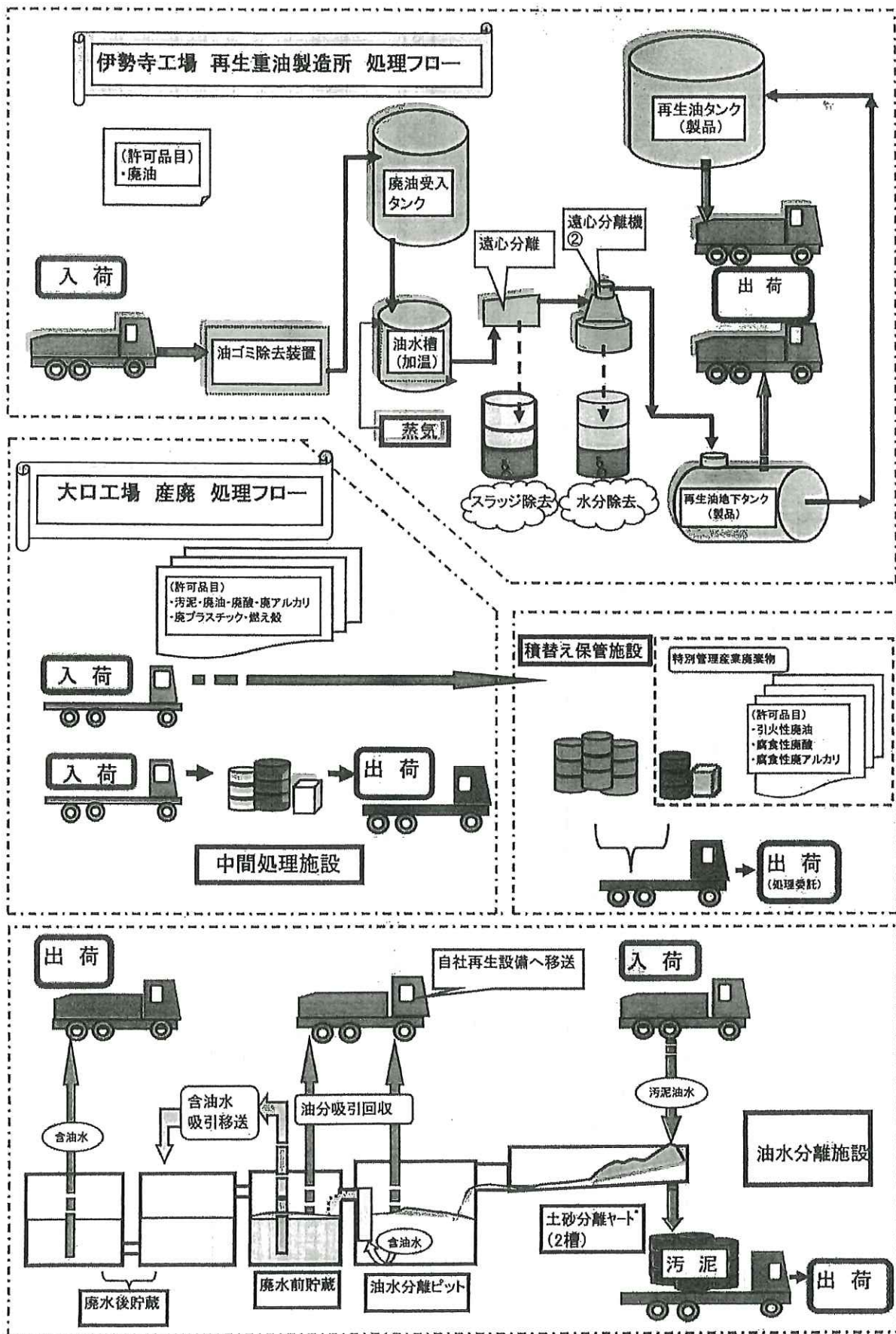
② 大口工場 ⇒ 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ: 9.8 m³/日 (24h)

(油水分離)



・処理実績 (中間処理)

処理実績	単位	H29	H30	R1
中間処理量	t	1,506	1,530	1,389



産業廃棄物 処理実績表 2019年度 (2019年4月1日～2020年3月31日)

持込量/収集運搬量			
持込量 (他社にて) (t)		0	
自社廃棄量「廃プラスチック」(t)		5.00	
区分	種類	収集運搬量 (t)	
普通産廃	廃油	1,519.79	
	廃プラスチック類	8.92	
	金属くず	81.46	
	廃酸	64.88	
	廃アルカリ	14.92	
	汚泥	0.66	
特別管理産廃	燃え殻	0	
	引火性廃油	33.15	
	腐食性廃酸	0.01	
	腐食性廃アルカリ	0	
特別管理産廃	感染性産廃	0	
	特定有害廃石綿	0	
	合計	1,723.79	

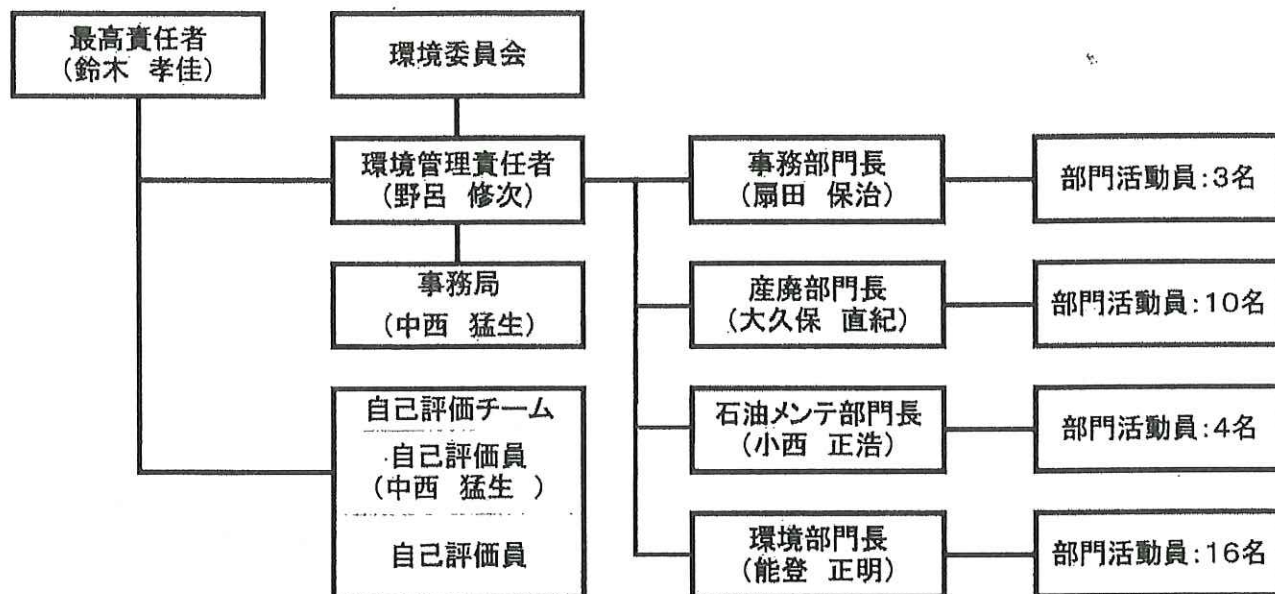
自社処分量 (中間処理)			
施設 (処分方法)	区分	種類	処分量 (t)
伊勢寺処分場 (油水分離)	普通産廃	廃油	956.55
大口処分場 (油水分離)	普通産廃	廃油	423.25
		汚泥	0.68
		廃アルカリ	8.59
		廃酸	0
合計			1,389.07

リサイクル・2次処理量			
有価売却 (再生燃料 [製品] 化)		売却量 (t) 698.9	
2次処理 (運搬、焼却、油水分離)		処分量 (t) 702.8	
最終処分		有価売却 埋立処理	

他社処分量			
区分	種類	処分量 (t)	
普通産廃	廃油	139.99	
	廃プラスチック類	13.92	
	金属くず	81.46	
	廃酸	64.88	
	廃アルカリ	6.33	
	汚泥	0.66	
	燃え殻	0	
	引火性廃油	33.15	
	腐食性廃酸	0.01	
	腐食性廃アルカリ	0	
特別管理産廃	感染性産廃	0	
	特定有害廃石綿	0	
	合計	340.4	

持込量 (他社にて) (t)	0	自社廃棄量「廃プラスチック」(t)	5.00	収集運搬量 (t)	1,519.79	処分量 (t)	1,389.07	総合計処分量 (t)	1,728.79
持込量 (他社にて) (t)	0	自社廃棄量「廃プラスチック」(t)	5.00	収集運搬量 (t)	1,519.79	処分量 (t)	1,389.07	総合計処分量 (t)	1,742.08

(11) 環境活動の取組体制



環境管理責任者 : 野呂 修次

担当者連絡先 : 中西 猛生 (TEL:0598-58-3110 FAX:0598-58-0300)

2. 登録対象

(1) 登録内容

M-EMS 登録証

初回登録日:2013 年3 月1 日

登録有効期間:2021 年2 月28 日

登録番号:M-EMS2-0104 KES2-5-0104

(2) 登録範囲

産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬及び、産業廃棄物の処分(中間処理)

石油施設メンテナンス事業、環境測定分析事業に係る全ての事業活動

(3) 対象事業所

本社 伊勢寺工場(中間処理施設) : 三重県松阪市伊勢寺町418 番地の1

大口工場(中間処理施設・積替え保管施設): 三重県松阪市大口町字新地1648 番地の8

営業統括本部事務所 : 三重県松阪市伊勢寺町3289 番地の3

3. 環境宣言

環 境 宣 言

経営理念

株式会社 中部環境技術センターは、環境経営の推進により地域社会及び顧客の安全・安心を確保し、地球環境を重視した企業活動を展開します。

基本理念

株式会社 中部環境技術センターは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方 針

株式会社 中部環境技術センターは、産業廃棄物の収集運搬業務（積替え保管含む）、産業廃棄物中間処理業務、危険物地下タンク貯蔵所・移動貯蔵タンク定期点検業及び石油関連施設のメンテナンス業並びに環境計量証明事業・作業環境測定事業に係わる全ての活動、製品及びサービスの環境負荷を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防及び環境保護を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスに係わる環境影響の内、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - 1) 電力使用量の削減
 - 2) 軽油使用量の削減
 - 3) 事務用紙使用量の削減
 - 4) 事業所周辺の清掃
 - 5) エコ商品の購入推進
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知すると共に、一般の人々が入手できるようにします。
5. 三重県及び松阪市の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し、環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2012年10月1日

改訂日 2016年 4月1日

株式会社 中部環境技術センター
代表取締役社長 鈴木 孝佳

4. 環境改善目標(2019～2021 年度)

・ 3 年間のCO₂ 削減計画及び実績

(基準年度:2018 年度)

No	環境改善目標		単位	2018年度 実績	目標と実績		
					2019年度	2020年度	2021年度
1	電力使用量の削減 (2021年度:1%減)	電力 使用量	kWh	87,973	目標	87,973	87,093
					実績	93,848	
		CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年	48,473	目標	39,764	39,366
					実績	42,889	0
2-1	軽油の燃費 向上 (2021年度:1%向上)	燃費	km/L	6.63	目標	維持管理 (6.63)	1%向上 (6.70)
					実績	7.09	
2-2	軽油使用量の削減 (2021年度:1%減)	燃料 使用量	L	82,953	目標	82,953	82,123
					実績	86,821	
		CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年	214,019	目標	214,019	211,877
					実績	223,998	0
3	事務用紙使用量の削減 (2021年度:1%減)	事務用紙 使用量	枚/年	174,330	目標	維持管理 (174,330)	1%減 (172,580)
					実績	174,320	
4	事務所・処理施設周辺の清掃(20回/年)	清掃回数	回	15	目標	20	20
					実績	20	
5	エコ商品の購入 10～15品目/月	エコ商品 購入品目	品目	170	目標	170	150
					実績	144	

二酸化炭素総排出量(電力+軽油)	kg-CO ₂ /kWh	基準年度	目標	253,783	253,385	251,243
		262,492	実績	266,887	0	0
二酸化炭素総削減量(電力+軽油)	kg-CO ₂ /kWh	—	目標	8,709	9,107	11,248
			実績	4,395増		

※2019年度の売上高計画が対前年比94.5%を考慮し、事務用紙使用量の削減については、基準年度実績値を5.5%減した174,330枚とする。

(184,484*0.945=174,337≒174,330) 依って中長期の単年度目標値は、174,330枚/年(14,527枚/月)を基準に1%削減した値である。

※2019年度のエコ商品の購入実績が目標未達につき、2020年度以降目標値を見直すものとする。

排出係数:電力0.452kg-CO₂/kWh(中部電力2018年度アニュアルレポートによる)

ガソリン2.32 kg=1CO₂/L 軽油2.58 kg=1CO₂/L(環境省2014年度出典による)

なお総排出量(水の使用量)は、生活排水及び分析業務用水のみの使用で、改善目標から除外したが、管理項目として取り上げ、節水を心がけ、その削減に努めていく。

自社産業廃棄物排出量は5.0t/年と少ないため、維持管理活動とするが、削減には務める。

受託産業廃棄物に対する施策は2020年度中に検討するとして、2019年度までは維持管理活動とする。

化学物質においては、主要取扱品5品目(アンモニア・ヨウ化カリウム・塩化カリウム・硫酸・硝酸)の年間総計が3kg以下であり、PRTR法に該当しないため、保管(施錠)・在庫管理等社内基準運用にて管理している。

5. 環境改善目標と実績

2019年度 環境改善活動実績

(基準年度:2018 年度)

No	環境改善目標	具体的施策	項目	単位	目標値	実績値	評価
1	電力使用量の削減 (基準年度) 維持管理	・スイッチの適正管理 ・休憩時間の消灯確認 ・設備の休止時電源オフ	電力使用量 CO ₂ 排出量 CO ₂ 削減量	kWh kg-CO ₂ /年 kg-CO ₂ /年	87,973 39,764 8,709	93,848 42,889 5,584	B
2-1	軽油(燃料)の 燃費向上(維持管理)	・アイドリングストップの推進 ・使用前点検の実施 ・エコドライブの推進	燃費の向上	km/ℓ	6.63	6.59	B
2-2	軽油(燃料) 使用量の削減 (維持管理)		燃料使用量	ℓ	82,953	86,821	B
			CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年	214,019	223,998	
			CO ₂ 削減量	kg-CO ₂ /年	0	9,979増	
3	事務用紙使用量の削減 (維持管理)	・裏面の再利用 ・電子媒体の活用(報告書等)	事務用紙使用量	枚/年	174,330	174,320	A
4	事務所・処理施設周辺 の清掃(20回/年)	・全員参加での清掃活動 近隣地域清掃日(17日)に実施	清掃回数(13回/月) 除草回数(7回/年)	回	13 7	13 7	A
5	エコ商品の購入 10~15品目/月	・全ての物品購入対象 ・エコ商品優先購入	エコ商品購入品目	品目	170	144	A

評価記号 A:良好(100%以上) B:やや不足(90~100%) C:不適合(90%以下)

項目	単位		電力	燃料	合計
二酸化炭素排出量 (合計)	kg-CO ₂ /年	目標	39,764	214,019	253,783
		実績	42,889	223,998	266,887
二酸化炭素削減量 (合計)	kg-CO ₂ /年	目標	8,709	0	8,709
		実績	5,584	9,979増	4,395増

排出係数:電力0.452kg-CO₂/kWh ガソリン2.32 kg-CO₂/L 軽油2.58 kg-CO₂/L

出典:電力は中部電力2018年度アニュアルレポートより、その他は2014年(H26年)環境省より

管理項目での実績

No	管理項目での実績	具体的施策	項目	単位	実績値		
					2017年度	2018年度	2019年度
1	水の使用量削減	・洗車時の節水励行 ・環境分析業務用水の節水	水使用量	m ³ /年	752	771	699
2	自社廃棄物の削減	・分別処理 教育(発生抑制)	自社排出廃棄物	t/年	3.2	3.3	5.0

5-1. 具体的環境活動の評価

- * 電力使用量の削減では、高電力高性能機器は昼夜連続運転必須で削減が困難なため、他の分析機器及び生活用電力(空調設備・証明等)について、運転温度基準及び消灯確認シート等による管理要領を策定し、管理担当者を定め、確認記録を環境管理責任者に定期報告を実施した。徐々に確認管理が習慣化し、各人の意識高揚が図られ有効な活動になりつつある。
- * 軽油・ガソリン使用量の削減では、月毎/車毎の燃費基準年度1%アップ運転を実施している。運転手間での燃費競争意識が出始めて、アイドリングストップ等が実行され、徐々に効果を上げつつある。
- * 二酸化炭素排出量(合計)については、軽油燃費の向上は図れたものの仕事量の増加により、電力は前年並みであったが軽油使用量が前年比8%増加したため、目標達成できなかった。
- * 事務用紙(コピー用紙)使用量の削減では、裏紙再利用率の意識は高まっているが、2019年度2年連続事業拡大に伴って基準値の使用枚数の見直しを図った。その結果、目標値を達成することができた。今後、客先との折衝による両面コピー報告書を初め両面印刷を推進し、削減を図る。
- * 廃棄物排出量の削減については、ほぼ全量が廃プラスチック類で排出量の多い、環境事業部に対し再教育を実施し問題意識を高揚させ、購入形態を検討し廃プラの削減は、徐々に効果を上げつつある。

- * 環境美化の推進として、近隣自治会の清掃日に合わせて1回/月 ゴミ回収を実施している。全員参加達成のため当日業務、休日等で不参加の場合、各人で月内に実施を義務とし、全員参加が達成された。また、環境の日に合わせた事業所周辺の清掃活動も積極的に実施し全員の意識高揚に繋がっている。
- * 水の使用量削減については、使用量の多い環境分析作業の見直しを実施し、作業改善が図られ使用量の削減が実現しつつある。
- * エコ商品(グリーン購入)の購入は、コピー用紙・事務用品・照明器具・作業用品・日用雑貨類等、全ての物品購入を対象とし、エコ商品100%購入を目指す現状意識にて活動を継続した。
2019年度は、144件、月平均12品目と目標達成には至らなかった。

5-2. 2020年度活動について及び今後の課題

- ☆ 電力使用量の削減:高電力高性能装置(発光分光装置)は、環境事業には重要な機器で安定連続稼働を要しエコ運転は困難であるため、事務所内に6台ある家庭用エアコンを重点に電力消費要素を再発掘し、更に地道な削減に努める。事務所移転に係る電力使用量の見込みが立たないことが課題となっている。
- ☆ 軽油・ガソリン使用量の削減:燃費1%アップを目標にアイドリングストップ及び速度上限制限(80km/h以下)並びにeスタート運転の実施、冷房設定温度25℃以上等を実施した。
更に意識高揚を図り目標達成に努める。
- ☆ 事務用紙(コピー用紙)使用量の削減:使用量は着実に削減されている。今後、更に積極的に裏紙使用徹底・社内文書電子化・客先提出文書の両面印刷実施のお願い(営業努力)等を推進し、ペーパーレス意識の充実化を図る。
- ☆ 廃棄物排出量の削減:環境事業部の分析、測定用試薬等のプラ容器が主体であるため、購入形態を検討し廃プラ削減に努める。
- ☆ 水使用量の削減:分析作業要領の見直し作業を充実させ、一層の意識徹底を図る。
- ☆ エコ商品(グリーン購入)の購入:従来からの100%購入意識を維持しつつ、目標値を確認及び見直し目標達成に向けて活動していく。

6. 環境関連法規の順守状況

当社の事業活動に制約を受ける環境関連法規制等については、(一社)産業環境管理協会のHPにて常時閲覧を行うと共に順守状況を定期的に確認し、評価の結果違反はなかった。

なお、関係機関等からの指摘・苦情・訴訟は過去3年間無かった。

7. 代表者による全体の評価見直し結果

7-1. 全体評価

システムの構築は、全般的にスムーズに運用され、現時点で見直す点はない。

2020年度もこのシステムを継続し、環境負荷低減に向けて推進すること。

環境負荷低減活動も8年を超え、更なる削減が厳しい状況にあり、今後は新たな低減策(低燃費車導入等)が課題となる。

7-2. 見直し評価

環境宣言の変更必要性 : なし

環境改善活動及び環境経営システム等の変更の必要性 : なし

以上